

浦和の活動家 意見交換会【トークセッション】 議事録

【テーマ】浦和の魅力や課題

【開催日】令和4年7月18日(月) 10:00~12:00

【参加者】

登壇者(五十音順、敬称略)

池本 洋一 (株式会社リクルート SUUMO 編集長 兼 SUUMO リサーチセンター長)

菊地 順子 (NPO 法人 Arts&Health さいたま代表理事)

堀 哲郎 (らしく株式会社 代表取締役)

松原 満作 (一般社団法人バイクロア代表理事)

三ツ口 拓也 (一般社団法人うらわ Clip 代表理事)

コーディネーター

宮本 恭嗣 (さいたま市 PPP コーディネーター)

【意見 (全文)】

《宮本氏》

そうしましたら、ここからはトークセッションという事で
先程の池本さんのお話を受けまして
実際、さいたま市浦和にもですね
さまざまな形で主体的に活動している方々が
既にいらっしゃるという事で
そういう方々のお話を聞きながら
これからの浦和、今の浦和をこれから市民がどういう形で
主体的に楽しんでいくのかみたいなお話ができたかなと思います
まず登壇者をそれぞれご紹介しながら、自己紹介という形で
非常に短くて恐縮なんですけれども
3分程のプレゼンテーションをしていただいて
それぞれがどのような活動してるのかというのを
ちょっと皆さんに知っていただきたいなと思います
まず最初に松原さんの方からお願い致します

《松原氏》

はい、よろしく申し上げます
一般社団法人バイクロア代表の松原と申します
我々バイクロアは
2011年からさいたま市にあります
秋ヶ瀬公園というところで
大人と子供の自転車運動会っていうのをコンセプトに
自転車レースイベントですね
プラス地元の個人事業主の方が
出店していただけるようなマルシェを同時開催してまして
今では日本全国で
こういった自転車レースイベントを開催させていただいてます
それと一方で、私はですね、生まれも育ちも
さいたま市浦和区の住民で
もう本当に幼稚園の頃から
浦和区にあります、附属幼稚園
そこから附属小学校、附属中学校と
エスカレーター式に上がりまして
今、編集長(池本氏)と初めて気付いたんですけれども
私も同じ中学で
多分、年齢的にも一個上の先輩かと思います
そんな経緯もありまして
あと、家業が裏門通りという通りがありまして
そこで、手焼き煎餅屋を営んでまして
私で3代目になるんですけれども、そういった部分からも

非常に浦和というのは色々変化してまいりまして
でも一方で凄く親しみやすい
住みやすい街だなんていうのは非常に実感しております
ちょっと簡単ではありますが、以上になります
よろしくお願ひします

《宮本氏》

松原さんありがとうございます
松原さんはまさに浦和で生まれ育って
家業もお煎餅屋さんで
なおかつ、自分もプレーヤーとして
バイクロアというイベントをやられていて
最近だと大宮でビブリという施設の
運営にも携わられていますけれども
またその辺のお話も、この後トークセッションできればと思います
この後続きまして、菊地さんの方にお願ひ致します

《菊地氏》

おはようございます
私は、NPO 法人 Arts&Health さいたまの菊地と申します
私も浦和で生まれて、浦和で育って
松原さんのお煎餅を食べて育っております
ありがとうございます
そして、私は 2000 年から市民活動を始めました
その前に 10 年間ほど
主人の転勤であちこちを回ってきたんですが
やっぱり浦和に帰りたくなりまして
浦和に帰ってまいりました
そして、帰ってきた時に
市民活動の事を学ぶ事がありまして
それに参加した事で
それをきっかけとして市民活動を始めさせていただきました
2000 年から始めて 4 年前に法人化しました
そして私達は、心も体も健康で生きがいを感じて
自分らしく住み続けられる
まちづくりを目指して小さな団体ですけれども活動しています
浦和区健康祭りというものを
浦和区保健センターと協力して開催をしています
それから、わくわく浦和区フェスティバルに協力もしています
今年度は 8 月 21 日に開催する予定で
子供のためのウインドアンサンブルによるコンサートとか
親子リトミックとか
キッズマネースクール、子供プログラミング講座を開催する予定です
また、さいたま市内公民館、公共施設
市民活動団体等の依頼を受けて、協力協働で体感する
癒しをテーマに、芸術性が高く、心に響く
コンサートや音楽療法等の公演・講座も開催しています
そして、昨年、オリンピック期間中に
異文化交流コンサートを自主事業として開催しました
コロナ渦で心がふさぎ込む状態が続いておりましたので
ストレス軽減など健康維持のために開催しました
主に高齢者の方を対象に
健康歌声講座を開催して
ピアノの生演奏で映像を見ながら
脳トレーニングを加えて健康維持の為に開催しています
2019 年に高校生ファシリテーター養成講座をした事をきっかけに
子ども未来塾を開催しています
内容としては、プログラミングを作成して
ロボットを走らせようとか、低学年には
ドライサイエンス浮力を学ぼうとか、そういう事をしました
そして、高校生ファシリテーター養成講座というのは
こういうような流れで、内容はこのような内容です
して最後に、高校生がファシリテーターとなって
発表していただきました
最後まで聞いていただきまして、ありがとうございました
このまちで健康で楽しく自分らしく住み続けられる
まちづくりの一助を担っていきたいと思っています
ありがとうございます

《宮本氏》

菊池さんありがとうございました
まさに市民活動のレジェンドのような方で
本当にものすごい多様な活動されていて
本当に3分では語り尽くせない内容だったと思うので
この後のトークセッションでも掘り下げていけたらなと思います
続きまして堀さん、お願い致します

《堀氏》

らしく株式会社の堀と申します
よろしく申し上げます
今日は息子が来てまして、あの黒いTシャツ着てる
2歳坊なんですけど、我慢してくれてありがとうございます
もうちょっとだけ我慢してね
私なんですけども、らしくという会社は
まちづくりの事業化支援の会社でして
税理士の事務所の代表もしています
今年で41なんですけど、長野の駒ヶ根っていう
南信州の生まれでして
今は浦和の東口の方に住んでいます
ちょっと変わってるのはですね
お笑い芸人を元々やりたいなって思ってまして
それで税理士の資格を持ってて
税金ネタにやったらウケるんじゃないかと思って
それで取ったみたいな変なところがあるんですけど
肝心の才能が全然ないなという事で、20代で諦めて
仕方なく税理士のキャリアを積み重ねたみたいな
そんな事があったりします
ただ、20代で税理士は開業しまして
転機があったのは2016年ですかね
駒ヶ根のまちがやっぱり衰退していくんですね
それをもう目の前でずっと見ていて
まちづくりとか、地域の実態って
これ何なんだろうなってすごく気になり始めて
なまじっか税理士も知識とか経験も付いていったので
何か自分で出来る事はないかなという事で
もう自分で事業にしてやろうというので
らしくという会社を立ち上げました
2019年から浦和を拠点にして
税理士業とまちづくり事業を融合させて事業をやっています
西口の調神社のすぐそばにある
青山茶舗さんの2階にオフィスを構えさせていただきまして
今は地域経済循環の見える化みたいなサービスもしております
これが税理士業とまちづくりの融合イメージ
みたいな図なんですけれども
主に相続・事業承継・創業、この3つ全てに
地域活性化の要素を付加していくみたいな
そういうやり方をしています
例えば、相続の部分だと税金を下げるとか
揉めなく遺産相続をすとか以外に
遊休不動産の活用などもダブルでやりながら
らしくの色も出していく、そんな事をやっています
これが国の登録有形文化財でも認定されたんですけども
決して私の持ち物ではなく
青山さんというほんと素晴らしい方の持ち物なんですけど
2階に我々が入っております
オフィスはこんな感じになってまして
1年半ぐらいたっております
今度、皆さんもぜひ来てください
ありがとうございます

《宮本氏》

はい、堀さんありがとうございます
お笑いを目指して税理士になったという
非常にユニークなキャリアをお持ちですけども
吉祥寺の東急裏みたいなところで
その、高く貸せばいいという事ではなくて
本当にまちにとってどういう形の事業承継なり
相続がいい形なのかみたいなところを、まさにまちづくりの視点から

何かアドバイスしていただけるような
税理士さんなんじゃないかなというふうに思いました
では続きまして、最後に三ツ口さんお願い致します

《三ツ口氏》

はい、一般社団法人うらわ Clip というところで
代表理事をしております、三ツ口と申します
この後、ちょっと動画を見ていただくんですけど
私達うらわ Clip というのは、おじさんが4人で立ち上げました
そのうちの一人はもうずっとご実家も浦和で
ずっと浦和で生まれ育った人間なんですけど
私も含め残りの3人は、みんな地方の都市の出身者です
ちょうど堀さんと僕、同い年な事が分かりましたけども
私は愛知県豊田市というところで、もう一人の人間は福島郡山
もう一人は新潟の妙高というところで
じゃあ、この3人の共通点は何かというと
奥さんがみんな浦和の人だったと
浦和にある浦和一女（浦和第一女子高等学校）という
地元ではどうも変わった女子がいっぱい通ってる学校なんですけど
そこを出身の奥さんに引っ張られて
みんな、先程のあの方（菊池氏）もそうでしたけど
浦和を出ても結局、鮭みたいだなと思うんですけど
遡上して、また浦和に戻ってくるっていう
そこにつられて10年前に浦和に住み始めまして
2010年に子供が生まれて、今子供3人で浦和の本太に暮らしてます
じゃあ、どんな事をやってるのかっていうのを
ちょっと簡単に動画でお見せしたいと思います
2019年にさいたま市役所前の広場でやったものですね
流してもらっていいですか
普段はここ、人が通過するだけの広場なんですけど
夏の間はじゃぶじゃぶ池があるんですよ
そこをちょっとうまく使いながら、これをさいたま市と
あと、日産に協力していただいて電力の車を導入しまして
これはみんなママ友パパ友とかが運営に関わってます
このクラフトビールもこの日のために作ってですね
オリジナルビールを振る舞いました
地域のお店とかですね
子供達が水浴びしながらマルシェをやるという
これをうらわ LOOP と名付けて、毎年開催したりしてます
ちょっとね、このコロナの影響で少しお休みしてたんですけど
またちょっと、やりたいなど
子供達の屋台を作ったりとか
この子供達は与野の子達ですね
地元のアーティストの方に
音楽を届けてもらったりとか
自分達で酒場もやっています
うらわ Clip 酒場と名付けて
この日は鈴木啓太さんも一緒にビール仕込んだんですけど、来てくれて
盛り上がりましたね
ここはナイトマルシェなんで、夜までやっています
実は、これ平日にやっているんですよ
夏休みの水曜日、平日にやりました
私もそうですけれど、埼玉都民というのは私も実は会社員で
都内の会社に通ってるんですけど、普段は
この時間まで行くとお父さんやお母さんが戻ってきて
みんなで楽しめるという事で
地元の浦和にも目が行くのかなと
どうしてもさいたま市に住んでいる人みんな
休日にディズニーランド行ったりとか
どこか違うところのまちに遊びに行く事も多いと思うんですけど
自分のまちにもすごく魅力はあるんだよって事を
このうらわ LOOP でもって感じてもらえたらなと
そんな事をしています。はい、以上です

《宮本氏》

まさに、池本さんの話にもあったように
公共空間をうまく活用しながら
特にそのまちの魅力を形成している中での大事な要素として
個人店の魅力みたいな事があると思うんですけども

それをマルシェという形で、地域にある個人店の魅力っていうのを
市民の方々、あるいは浦和のさいたま市役所の前でやっていますけども
そもそも市の職員にも
そんな趣旨で開催したマルシェで
残念ながら、コロナの影響でこの2、3年
開催できない状況にはなっていますけれど
何とか今年復活できればみたいな事は
今、企画されてるっていう風には伺っております
はい、ありがとうございます

では、ここからはトークセッションという形で
まずは、池本さんの基調講演の内容を振り返りながらですね
ちょっと皆さんから浦和の魅力なりですね
あるいは場合によってはその課題みたいなものを
ちょっとお聞きできればなという風に思ってるんですけども
その池本さんの話にもあったようにですね
池本さんの前にお話ししていてすごく印象的だったのが
浦和の魅力としてですね、マルチアクセス性だとか
教育のコスパの高さだとか、色々あったと思うんですけども
そもそも浦和というのは恵まれすぎてるんだ
みたいなお話がすごく印象的にあって
そういった恵まれすぎてる浦和が
後半にあったように、その住み続けたいまちであり続けるために
大事な事というのは、やっぱり今日の登壇者も含めてですね
そういう街を楽しむ人達
あるいは主体的に活動していく人達が多いまちほど
そういうまちだという事で
まさに今日の皆さんがそういう方々だと思うんですけども
まずは皆さんの方から池本さんの話を聞いて
何かご自身が考える浦和の魅力とか課題みたいな事を
ちょっとお聞きしたいなと思うんですけども
松原さんから順番にちょっとお願いできますか

《松原氏》

そうですね、うーん
まず何ですかね、課題点というか
何か今、ちょうど僕がビブリーっていう旧大宮図書館の利活用で
そこにですね、バイクロアは今年で12年目なんですけれども
初めて常設拠点を
お店ですね、店舗を構える事ができて
そこで日々、色々生業をしてるんですけども
その時に一つ思ったのが
やっぱり土曜日、日曜日っていうのは凄い人が来るんですよ
月に一回、一応バイクロアプロデュースで
そういったみんなのマルシェっていう
マルシェも開催させていただいてるんですけども
その時もすごい人来ていただけるんですね。大体1000人ぐらい
来ていただけるんですけども
ただ一方で平日が全く人
こういう言い方じゃあれなんですけど
ほとんどお客さん、閑散としてる感じなんです、館内も
僕ちょっと思ったのが、やっぱり自分もそうだったんですけども
サラリーマン時代がありまして、実際に東京に仕事しに行って
帰ってきて寝るっていう、要するにベッドタウンですよ
そういう利用というか
結婚して、色々家の事情もあって
家業を継ぐという事になって
その時に思ったのが
要するに、このさいたま市内でそういった仕事があれば
都内に行く必要ないじゃないですか
そうすると平日も何かこう、何ですかね
さいたま市内でご飯を食べたりとか
何か、そういった行動ができるのかなと
これ、ちょっと友人に言われて非常に面白かったんですけども
東京では埋もれてしまう人が
さいたま市では活躍しているという事なんで
そういった事をもうちょっと若い人達とか、次の世代の人達が
東京じゃ埋もれちゃうけど、自分がやっても
でも埼玉だったら、まだ何か可能性あるよみたいな

そういう形で要するに、さいたま市で仕事を何か自分達で作ってもらう
それが、多分恐らくできないんですよ
なぜなら、賃料が高いから
私の家業である裏門通りっていうところも
賃料がもうめっちゃくちゃ上がってます
まあ、どことは言わないですけども
とある場所は本当に四谷よりも高かったっていうくらい
いや本当なんですよ
そのぐらい賃料が高くてですね
そうすると、もう決まってくるわけじゃないですか
もう美容院か、そういった接骨院だったり、それと病院関係
何も若い人達がチャレンジできないっていう事も
やっぱり一方であるのかなと
そうしたときに、やっぱりそれは行政がある程度
例えば、この前は埼玉県立
あれは何ですか、市民会館じゃなくて。ごめんなさい、図書館か
図書館を潰して防災公園にしたんですけども
例えば、その防災公園っていう名の公園だったら
そこを特区として、若い人達がチャレンジできるような
例えば、コンテナハウスを置いたりとか、何かそういった
お店をちょっとできるようにしたりとか
何かそういう事ができると
ごめんなさい、ちょっと話長くなっちゃって
何かこう、もうちょっと何だろうな
さいたま市でも何かやってみようかなっていう人達が
あと優秀な人が、それで人口が流出しないようにできるのかなと
何かちょっと考えましたね、はい

《宮本氏》

はい、ありがとうございます
今の松原さんの話は凄く大事な話だなと思っていて
やっぱり浦和も大宮もどんどん魅力が高まって
もう再開発が進んだりとかですね
そういう環境がなる中で、やはりその
家賃がどんどん高まって行ってしまっていて
若い人がチャレンジしにくい環境にあるっていうのが
凄く実は一方で課題としてあるのかなという風に思っていて
まあそういう中で、その埼玉都民と言われてる人達が
今はコロナでテレワークの話もあったりしますけれど
市内で働ける環境だとか、チャレンジできる環境が今後もどれだけ
作り出していけるかってとても大事な視点だなと思っていて
そういう意味で、次に是非お話を聞きたいのが
堀さんの地域経済循環のお話
ちらっとだけさっき触れてましたけれども、堀さんが取り組まれている
地域経済循環の見える化みたいな話っていうのは
これもすごく大事な話で
単に市民がお金を稼いで税金が増えればいいという事ではなくて
それがいかに地域の中でまわっていくかみたいな事って
実はものすごく大事な事で
特にベッドタウンっていう要素を持ってる浦和、埼玉においては
地域でたくさん稼ぎを生み出してるのに
それがほとんど都内や地域外に流れて行ってしまっている実態が
ベッドタウンにはこうすごく強い傾向があるかなと思っていて
そういう中で、その地域の中で
地域のために本当に頑張ってる者達にお金が回るだとか
あるいは、そういう環境をつくるように
まちがこう仕組み化していくみたいな事って
すごく大事だと思うんですけども
そういった経済的な視点で堀さんが取り組まれている事も含めて
その浦和の魅力なり、課題なりみたいなところを
少しお聞きできたらなと思うんですけども

《堀氏》

私がですね
本当にこれは妄想でスタートしたような取り組みなんですけど
みんなのまち代っていいまして、まちのお財布診断
お財布診断をしてお金の流れを読み解く事で
その実態ですね。地域の実態を見ていこう
みたいな事をやっています

一番最初にやったのが浦和ですね。やってみて気づいたのは
めっちゃめちゃ大変なラスボスみたいなまちをやっちゃったなと思って
めっちゃめちゃ大変でした
でも、やったのは浦和駅周辺で徒歩 15 分圏内
私の家がちょうど 15 分くらいなんですけど
東西南北全部 15 分圏内で、こういう感じでこう
一番母数がやっぱり多いですね
さっきのお話にありました埼玉都民とか
やっぱり国勢調査とか全部見ると
4 人よりも 3 人の核家族が多いんですよね。その母数として
持ち家を持って、35 年ローン組んでみたいなのでやりました
私のやり方はよくリーサスとか、もしくは経産省のやり方とか
地域経済循環のツール、やり方って
結構世の中で幾つかあるんですけど
リーサスってのが経産省でやってるツールがあります
他にも幾つかあるんですけど、結構ですね
いわゆるこの経済学的な産業連関表とか
埼玉県とかが出してるようなものとかもそうなんですけど
例えば、経済効果みたいな感じで 100 億何かに投下したら
どんな産業にいくら広がっていくかみたいのを計算する
そういうやり方多いんですけど、私の場合は徹底的に実額なんです
どこまでいっても実額です
なので、国勢調査とか税務統計とか決算書とか
こういうパルコとかの業績資料、これらをひたすら漁ってきます
延べ 7000 ページくらいあると思いますので
それを 150 か 200 くらいに凝縮していったんです
どういう事が言えるかっていうと、この見方がですね
これマイホームが軸なんです。家の図がありますんで
一家の主である、例えばお父さんみたいな人が
都内の、例えば上場企業などから
比較的高額な給与を引っ張ってきてると
これがその住宅のローンとか住民税から
逆算して割り出してるんです
住民税って率が決まってるので
逆算すれば課税の所得とか全部出せるんですよ
エリアでちゃんと区切れば大体の実額も見えるんです
その部分とか見れば給与の金額は出てきて
大体ですね、750 万から 850 万くらい
年間の平均的な給与っていうのがあって
大体ですね、浦和区、南区だと 8 万 6000 世帯くらいが
その 40 代から 50 代ですかね、駅前メインで住んでるんじゃないかと
そういうのをこう手取りで収入だと、4800 億くらい返ってきて
それがいろんな消費に散っている感じなんです
このデパートっていうのは伊勢丹とかパルコとか
イトーヨーカドーとかアトレの実額の数字を基にしています
このローンの返済とか納税額とかも実額を基にしています
この試算をして自分が一番驚いたのが 4800 億入ってきて
この半分くらいが家の左側に出てる矢印なんです
これがインフラとか、水道光熱とかそういったものなんです
旅費とか
ここの部分がポイントなんだなと
僕はちょっと勘違いしてたのが
大手のデパートとかネット系の会社
ここにお金を持っていかれてるんじゃないかなって思ったんですよ
そこは確かにそうなんですけど
実額で見た時にそこじゃないんです
やっぱり水道光熱とか、あと意外に保育料とかなんです
保育料が、やっぱりこれが市内でやってる保育園なのか
全国展開してる保育園なのかによって全然
この域内のか域外なのかで変わってくると思うんです
その部分がやっぱり第 2 回目ですとしたり
さらにその 2500 億の行く末みたいのを
調べないといけないかな、みたいな事がわかりました
これ以上話すと 1 時間ぐらいいなりそうなので
こういうような構造のある中で
いかに何が出来るかみたいなのを見ていく感じですかね

《宮本氏》

はい、ありがとうございます

若干ちょっと専門的で難しい話だと思うんですけども
でも、やっぱり市民が稼いだお金がどう使われているのかというのは
実はすごく大事な視点で、まちづくりに関わる時に
主体的に何か活動していきましようという事も
とても大事な事なんですけれども
実は一番関わりやすいのって消費だと思うんですね
要はお金の使い方をどう考えるかっていう時には
私も Amazon でついポチっちゃいますけど
Amazon で買うのか、地元の商店街のお店で買うのか
本を買うにしても Amazon で買うんじゃないかと
地元の本屋さんで買うのかみたいな
そういう小さな消費行動の積み重ねが、実はその町の魅力を保つ
実はすごく大事な事なのかなと思ってまして
そうすると、まさに今、堀さんがおっしゃられたような
半分近くは、インフラ系とか生活
普段の暮らしの中でのサービスを受ける時の対価として
支払ってるものであったりとか、その商業的な消費という意味では
10%しか実は地域の個人店に回ってないみたいなのところも
実はすごく大事なポイントだったりすると思うんですけど
何かそういうお金の使い方を
普段から考え直してみたいな事から、実は始めてみるっていうのも
実は町の魅力を維持するためには、すごく大事な事
お煎餅は亀田製菓で買うんじゃないかと
3代目満作で買うみたいなの事こそが
実はすごく大事だったりするのかなっていう風に思っていて
何かそんな事も少し皆さんの中で意識していただけると
そこからも少しずつまちは変わっていく事になるのかなと
ちょっと思いましたね

《堀氏》

少し補足させていただくと、手取りの収入がやっぱりどんどんですね
これから減っていっちゃうと思うんですね
やっぱり 30 年後のビジョンを描いたときに
多分この 4800 億は 3000 億とか
3500 億円に減っちゃうと思うんですね。でも、やっぱり
この 10%の地元店とか、そういうところに落ちる事によって
派生効果があると思うんですね
域内循環を増やせる、そうすると経済が成り立つかなと

《宮本氏》

そうですね
だからお金っていうのは、何かお煎餅一つを買ったっていう事だけで
済む話ではなくて、その先にそこで働いてる人だとかで
その働きしてる人のお給料が
また次にどこに回ってくるのかというような形が循環だと思うので
そのお金の行く先を意識しながら使うっていう事が
実はすごく大事な事かなという風に思っています
じゃあ、続いてそういうローカルな地域経済循環という中で
うらわ LOOP の取り組みって
わりとローカルな個人店を応援するっていうところから
何か一つスタートしてるとは思うんですけども
そのローカルの魅力を高めていく
あるいは気づいてもらってるところから取り組まれている事が
うらわ Clip の母体としてあるかなと思うんですけども
何かその辺でご自分達の活動を含めて
浦和の魅力だったり、課題だったりみたいな事を
ちょっと三ツ口さんの方からお聞きできたらなと思うんですけども

《三ツ口氏》

うらわ LOOP そのものは、やはりその個人店とか
そういうところに光を当てて、域内のまさに経済循環というのと
一つのテーマではあるんですけども
もう一つやはり大事なものは、我々うらわ Clip っていう団体は
みんなパパ友で繋がっていて、やっぱ子供がいるんですね
私も 3 人いますし、他のメンバーも複数子供がいて
浦和の小学校、幼稚園、保育園に通ってる訳なんですけども
彼らはつまり、さっきの住み続けたいまちっていうところに
繋がってくると思っています
今うちの長男は 12 歳ですけども、中学、高校となっていた時に

このまちの中の居場所、このまちって面白いじゃんって
彼ら視点、彼女ら視点でこのまちの中の魅力に
いかに多く気付けるかっていうところが
恐らく、その先の経済的なところからでもそうですし
先程私が申し上げた通り、浦和で生まれ育った
特に私、女性にその傾向が多いのかなと勝手に思ってるんですけど
周りにそういう人が多いので
その方がやっぱりいる大企業で活躍したり
その中には世界で活躍して、最終的に子供が生まれるのをきっかけに
浦和に戻ってくるっていう現象って
そこに魅力を感じているっていうところがあるし
そこってやっぱり地元への愛着みたいなもの
この愛着っていうものが育まれる
何て言うか、関わりしろがまちの中に多くある事が
多分とても大事なのかなと思ってるんですよ
私自身も先程言ったように、都内の企業に勤めている
一方では会社員なんですけども
共同代表の長堀という人間も超大手企業の会社員
でも、地元で今は伊勢丹の上でビアソラっていう事やってたり
最近、上でビアガーデンやってますけど、そこを回してるのもうちの
もう一人の共同代表の一人なんですけど、そんな事をやっているんですよ
なぜかという、それは一つには、子供達の居場所を
まちの中にもっといっぱい作りたいなと思ってるんですよ
そうする事によって先程言った、その愛着が
実際そこに住み続けたいって事に繋がりますし
それがひいては、その消費行動にも繋がっていく
ていうところの視点であったりとか、そのきっかけみたいなものを
このうらわLOOPないしは我々うらわClipとしての活動では
作っていききたいなど。そこ、結構ポイントかな
特にお父さんは、子供達もそうなんですけど
実は僕らにとっても浦和というまちが、自分達の地元ではないですよ
生まれたまちは違うところ、地方都市にあって
じゃあ何でこんなおせっかいしてんだと
たかだか12年、この町に住んでいるだけなんですけど
それは自分の居場所作りでもあるんですよ
子供達にとってのふるさとづくりでもあり
自分達の居場所づくりでもある
その時に、やはりそういう、その
何というか、柔らかさとか
まちの中に、ここ使っていないところあるんだけど使えるんじゃない
聞いてみたら、あっ使える！とか、そういう部分が
多ければ多いほどいいのかなっていう風には思いますね

《宮本氏》

ありがとうございます
まちの中に居場所を作るとか、関わりしろを作っていくっていう事は
池本さんの話にも通じるところが凄くあったと思うんですけども
住み続けたいまちでありつづけるために大事な要素としては
安心安全という意味での顔見知りが多いみたいな話ですとか
あるいは、そのまちの一員になる仕組みがあるのかないかみたいな
お話とかがすごく大事なかなと
それを熟成させていく仕組み、場所みたいなものがあるまちってというのが
魅力を保ち続けるみたいな話だったと思うんですけども
そういった観点からいうと
菊池さんがこれまで20年近くやられてきた活動っていうのは
まさにそのまちの中での居場所づくりだったりとか
関わりしろってものを市民の中に作っていく活動を
ずっと長く続けてこられてきたと思うんですけども
これまでどちらかというと、その若い世代の人達
まさに子育て世代の人達が、そのまちの中に関わる仕組みっていうのを
三ツ口さんや松原さんが作ってきたところがあると思うんですけども
菊池さんは本当に幅広い世代
ご高齢の方から若い高校生のあたりまで
ずっと関わってこられた中で、何かそういうこう、何でしょう
例えば、先程の武蔵野市であれば、市民活動がその人口に対して
ものすごく多いみたいな地域だと思うんですけども
菊池さんから見て、さいたま市、特に浦和周辺のですね
市民活動の高まりだったりとか
あるいはそういった居場所づくり、関わりしろを作っている中で

その浦和の魅力だったり
何かこれからそういうものがもっと広がっていくためには
どんな事が必要なのかみたいな事を
ちょっとお話を伺えたらなと思うんですけども

《菊地氏》

そうですね
浦和のまちには素晴らしい市民活動団体がたくさんありまして
そして、素晴らしい活動をしてらっしゃる方がたくさんいらっしゃるんです
ただ、その方達との横のつながりが薄い
なぜかという、浦和のまちって困ってる事があんまりないんです
なので、一つの課題についてみんなが一致団結して
話し合っ、それでこのまちをどうするか
自分達で自分達のまちを作るという意識が
やはりちょっと薄いと思います
だけど、それはなぜかという
行政からアンケートやこのような説明会
このような話し合いとかを開いていただくんですが
こうやって市民から様々な意見が出るのに
それを政策形成に反映してないんですよ
それが一番大きくなって、それを反映していただければ
住民も、じゃあ反映していただいたから、少しずつでも
関わっていきこうという気持ちが高まるのではないかなと思います
お母様方からは、やはり今、子育て中のお母様方から
サッカーの町って言われているのに
子供達が自由にボール遊びをする場がない
室内で遊べる公共の子供用施設がない
学童保育は4年生までで小学生が放課後勉強する場がない
そういうお声をいただいています。だったら、やっぱり
乳幼児から高校生までそれぞれの世代に合った
喜びを発見する場とか、子供のやりたい事を
応援する場を作っていただきたいと思います
東京都では、こども中高生プラザとかがあります
そして高齢者も、やはり高齢者が今まで、長年この浦和で
このまちを作ってきた事について
子供達にも伝えていきたいと思うんです
でもそれを、子供達と交流する場がないんです
なので、やはりそれは児童高齢者プラザとか
子供達と交流できる場っていうのを作っていただいて
そういう市民の意見を市政に反映していただかなければ
まちづくりの本当に素晴らしい企画ができて
それを使うのは市民なんです
なので、大宮市民会館が出来上がっても高いです
使用料すごい高いし、コンサートしかできない
もう既にそういうお声をいただいています
浦和市民会館は、そういう会館ではなくて
ちゃんとした市民の声を聞いて、市民が使いやすい
会館にしていきたいという風に思っています
なので、やはりそういう事が
これからまちづくりではすごくその30年後を
もう私は生きてませんけど
30年後に子供達がこのまちを今以上に住みやすいまちにするためには
そういう事も必要なんじゃないかなって思うんですが
若い方達も素晴らしい活動をしています
ただ、それがやっぱりうまく連携ができない
うまくアピールができない
そして、うまく活動場所がない
そういう事で、やっぱりこう目立ってこないんだと思うんです
なので、やはりその方達が、その若い方達が
もっともっと市民活動をやっている事を、もっともっとアピールして
もっともっと市民の方に理解していただいたら
やっぱりその方達の活動もどンドン広がっていくと思うんですが
なかなかやっぱりそういう風に横のつながりが
団体同士のつながりとか、団体同士の連携がなかなかできない
それをちょっと浦和区の市民活動ネットワーク連絡会では
その連携をつけようと思ってわくわく浦和区フェスティバルを開催したりとか
そういう形でやっているんですが、やはりそういうこう
市民活動ネットワークとかに入るのに、やはりちょっとこう
難しいんじゃないかとか、お年寄りの団体が多から

何かこう言われるんじゃないかとか
そういう事になってしまうんじゃないかなと思うんです
なので、やはり一つの何かテーマを決めて
一つのワークショップとかをやって
そこでやっぱりお互いを理解しあう事が
すごい大事なんじゃないかなというふうに思ってます

《宮本氏》

ありがとうございます
何でしょう、市民活動って、何て言うんですかね
これはちょっと僕の言葉が足りないかもしれないですけど
ものすごく何なんでしょう
意義あるものだと思うんですけど、少し堅苦しいとかですかね
何か若干そういうイメージとか、関わりづらみみたいな
気軽に関われないみたいなところもあったりするのかなと
逆に、例えばバイクロアだったりとか、うらわLOOPだったりとかって
これも一つの市民活動だと思うんですけど、多分お二人とも
市民活動だと思ってやってないじゃないかなと思うんですよね
自分が本当に楽しいからとか、やりたいからこうやってみたいなの
何か自分からの発動でこうやってるような感じがして
もちろん多くの市民活動もそうなのかもしれないですけども
その辺の外からの受け取られ方とか
まさに池本さんがおっしゃっていたような
絵になる風景をいかに作れるかみたいなところで行く
どうしても市民活動って公民館の中とか
こういったコミュニティセンターの中でやられる事が多くて
なかなかそれが外の人に知られる機会が
その場に来ないと見えないみたいなところが
やっぱりあるのかなと思っていて、やっぱりそれをどう外に
うまく見せていくのかみたいなところで行く
例えば公園だったりとか、いろんな公共空間の中で
そういった活動を外に向けて参加しやすいような形でやっていくって事が
何かすごく一番やりやすい形としてはあるのかなと思っていて
そういった意味では南丘陵公園みたいなのはまさに
わかりやすい事例だと思うんですけど
何かそういった外に向けて、そういった活動の滲みだしが
見えるよう、見える化していくっていう事が
多分、まだまだ埼玉っていうのは少ないような気がしていて
そういう点で行くと、何かその街の中にある公共空間だとか
そういった空間をどう使いこなしていくかみたいな事が
そこにどう市民活動が滲み出していくかみたいな事ができていくと
もっといろんな人が関わりやすくなっていくのかなと思うんです
そういった意味で
あそこも実は市民広場か何かのはずなんですよ
本当はもうちょっと多様な使われ方が
市の持ち物のはずなので、できるはずなんですけど
いろんな事情でなかなかうまく使いこなせてないみたいなのが
多分、この図書館との連動という意味ではありますし
当然そのさくら草通りだとか、あの辺のところだって
ゆとりある歩行者空間があったりしてるけど
まだまだそこは通過交通でしかないみたいなところもありますし
そういった意味ではまだまだ浦和の周辺でも
そういった空間の余剰とか余白って多分たくさんあるので
なおかつ今日は
あまり浦和のまちづくりビジョンの話には触れてないですけども
実はその重視すべきものとして
いくつポイントがあるんですけど
心を動かす路地性・界隈性みたいな事が
実はビジョンの中に描かれようとしてるんですね
一体それ具体的に何なのかみたいなところで
一方で、開発が進んでいたり
タワーマンションがどんどんどんどんそういう路地や界隈に
できてる浦和の実態なんかもある中で
そういった路地性・界隈性をいかに未来につなげていくのか
みたいな事ってとても大事だと思うんですけども
まさにその路地の中でご商売されてる松原さんとして
何か浦和の魅力ってやっぱり裏門通りはじめ
そういった路地性みたいな事も
とても大事な視点としてあると思うんですけど

実際そこで商売されていく中で
何かそういった路地のうまい活用とか
それをいかに続けていくのかみたいなどころの視点からすると
さっき家賃がどんどん高まってしまってるってみたいなどころも
あたりしますけど
そこをいかに未来に繋げていくのかみたいなどころで
何かお考えというか、感じている事があれば
教えていただきたいんですけど

《松原氏》

そうですね
ちょっと話ずれちゃうかもしれないんですけど
先日、佐賀県の方で
ちょっとバイクロアやってくれないかっていう話が来まして
ちょっと視察に行ってきたんですけども
その時にワークビジョンズさんって、はい、西村さん
西村さんが今オフィスを構えている通りがあるんですけども
呉服町という通りは
すごくやっぱり僕行って裏門通りと似てるなっていうか
全然あの何だろう
ちょっとこう何と言えいいか、皆さんご存じだと思うんですけど
お母さんをですね、働かせたいっていう事で
ベーグル屋さんを始められたんですよ。で、そのベーグルが
もうめちゃくちゃまくて。それはちょっと余談なんですけども
あと新しくドーナツ屋さんを開いたりだとか、何て言うんですかね
その古い、ちょっと疲弊したって言ったら失礼かもしれないですけど
そういった路地、通りをデザイン事務所さんが入って
実際にそうやって利活用されてるっていう
要するに、やっぱりデザインだったりとか
そういった今時のものをそういった通りに誘致する
ただ、一方で、恐らく佐賀は賃料も全然安いから
そういう事ができるっていうのもあるかもしれないんですけど
だからその辺が煎餅屋のある裏門通りが
果たして同じような事ができるかっていうと
また微妙だと思うんですけども
なので、僕はちょっと素人考えで考えたのは
タワーマンションがバンバンできてくる
最低でも1階はテナントとして貸し出しするっていう形にすれば
もちろんそこも賃料が高くて
なかなか入りづらいかもしれないんですけども
まあ最低でもそうやってお店が生まれる事によって
子供達が、例えばうちの煎餅屋なんかは必ず
まだ母親も元気なので、おばちゃん行ってくるねとか
おばちゃんただいまっていう、そういう日常があるんですよ
要するに、それがいわゆるまちづくりとかコミュニケーションというか
そういう事で安心できる環境
そういうのが防犯だったり、防災にももちろん繋がりますし
昔はそういう括りでは発言されてなかったと思うんですけども
何かそういう事が住みやすくなる一つの要因なのかな
安心して暮らせる一つの要因なのかなと思います

《宮本氏》

はい、ありがとうございます
タワーマンション化、マンション化していってしまうというのは
ある意味、経済合理性という意味では何か仕方ない部分というか
住みたいまちである浦和だからこそ、そういった需要も
当然たくさんあって、実際ここにいる方の中でも
そういったタワーマンションにお住まいの方もいるでしょうし
そういったものができるからこそ人口も増えるし
多様な世代の人達が入ってくるっていう
もちろんいい面もあるけれども、一方で、それによって
路地性・界隈性を保ってきた商店街が
少しずつ失われていってしまうっていう側面もあったりするという事で
いい面悪い面両方あるわけですけども
今、松原さんがおっしゃったように
1階部分をどうデザインしていくかみたいな事って
やはりすごく大事な事で、やっぱりこれっていうのはある意味
規制をかけていくというか、そういう方向に誘導していくって事が
とても大事になってきて、デベロッパーにそれをこう、何でしょう

デベロッパーさんとしてそれを意識的に自らやろうっていうのはなかなか難しいと思うんですよね
だからそれはどちらかというと地区計画だとか
都市計画的にそういった方向に誘導していくって事が
多分、市役所的にできる事なんじゃないかなと思うんですけども
これ全然、多分、振られるだろうなと思ってると思うんですけど
本業がデベロッパーの三ツ口さんからすると
そういった開発していく中でデベロッパーが果たす役割も
とても大事だと思うんですよ。だからその視点で何か
そういったマンション化していく事は仕方ないにしても
それをどう、まちとうまく共存していくのかみたいなのところの視点で
何か少しお話しただけならなって思ったんですけど

《三ツ口氏》

私の本業はデベロッパーでして、デベロッパーの功罪といいますか
今、西口でも開発が
あれは僕が勤めてる会社じゃないですけど、ありますけれども
やっぱりデベロッパーだけの視点というか
さっきの規制というか、枠組みとのセットだと思うんですよね
まちづくりのそこは行政が担えるところで、そうしなければ
デベロッパーは当然、営利企業ですから、収益を最大化するためには
なるべく細かくユニットを割ってですね
同じ土地の中にいっぱいの人に住んでもらえればいいわけで
テナントっていうのはデベロッパーにとっては
あんまりやりたくないはずなんですよね
1階部分をやるっていうのは
ですけども
もう一つは、ある程度の戸数があれば
必ず今、条例とかで空地を設けるというか、その敷地内に
街に滲み出すようなエリアを設けなくちゃいけなかったりするわけですね
そのデザインをどうするかとか
あとは、さっき言った路地性とか界隈性の部分でいくと
物件ないしは建物とまちの道との接続点の部分ですかね
歩く場所、そこをうまくデザインしてあげる事で
例えば、建物内では出来ないかもしれない
1階部分でげた履かせるってよく言うんですけど
テナント入れたりする事が難しいのかもしれないけど
そこに、例えば最近であればキッチンカーとか
そういう人達が乗り入れて来れるようなつくりにしておくとか
そういう風にすると、家賃をずっと固定では払えないんだけど
パッと来て、1日の使用料を払って
そのまちの中の路地をうまく利用していく
そこにぎわいが生まれてくるみたいな事はできるのかなんていう風に
そういう開発が本来は、デベロッパーというのはやはり
非常に公共性の高い仕事だと思うんですよね、人の暮らしを作っていく
それがつまりまちの景観を作っていく事になるので
デベロッパー自体の意識改革ももちろん必要ですし
それを後押しするための政策っていう部分が
同時に必要になってくるかなって思うんですよね
あとは、自分の子供時代なんか田舎なんで
使われてない土地がやたらにあるんですよ
そういうところに子供達の溜まり場だったりとか
ちょっとそこで悪い事したりする事もあると思うんですけど
そういうような余白がとにかく今はないですよね
かっこいい、バシバシってもうやり方区切られていて
さっき言った公園にしてもそうですけど
ボール遊びできないと
これダメですこれダメですじゃなくて、やれる事は何かっていうのを
逆に発信できるような仕組み作りって言うんですかね
公園だったらやれない事を書くじゃなくて
やれる事を書く看板を立てるとか
何かそれだけでも、多分関わりしろは変わるかなと思いますから
デベロッパーの役割という部分と、行政として何ができるかとか
民間としてもそれは公共性が高い事やってるんであれば
何かもうちょっと工夫のしがないのかなってところが
私、思うところですね

《宮本氏》

はい、ありがとうございます

どうしても地価が高い、家賃が高いという場所である限りはそれを建物の中で実現するハードルはどうしてもあるの
そういう中でも貴重な公共空間だったりだとか、
そういった開発によって生み出される広場だとか
そういった空地空間をいかに活用していくのかっていう事が
特にそれが市民が主体的に活動できるような場所になっていくって事が
一つ凄く大事な事なのかなという風に感じました
そろそろ時間にもなってきましたので
これでそろそろ締めたいと思うんですけども、ちょっと最後に
一言ずつ皆さんの方からですね。言い足りなかった事とか
これからの浦和に対する期待なりですね
あるいは皆さんの活動に色んな方がどんどん関わっていってもらうとか
あるいは自らそういう活動をこれから起こしていってもらう
みたいな事に対してのちょっとこう
メッセージを最後にちょっといただければと思うんですけども
松原さんからちょっとお願いできますか

《松原氏》

はい、そうですね
先程もちょっとお話仕上がっていたその空地空間って言うんですかね
その部分は、やっぱり行政が主導してオープンにしてあげる
誰でも使っているんだよと
先程もちょっとお話が出ましたけど
中山道の歩行者天国だったりとか
またそういった30年前40年前にやった事を
もう一度リバイバルでやってみるとか、あと僕の子供の頃だと
別所沼で花火が上がってたんで、そういうものをまた復活させるとか
何かそういったちょっとエモーショナルな
昔懐かしいものをもう一度やってみるといのは
非常にいいのかなと思います
なので、その辺を是非
すいません、さいたま市さんよろしく願いしますみたいな
以上になります

《宮本氏》

はい、ありがとうございます。菊池さんお願い致します

《菊地氏》

やはり色んな団体さんと連携をして
一緒にこのまちを作り上げていく事が大切だなんていう風に思います
まちづくりは人づくりからが始まらなければいけないっていう風に
私は思っているんで、そういう形で人と人とのつながりがすごい
これからも大事になると思っていますので、はい
色んな連携をしていきたいと思っていますので、よろしく願いします

《宮本氏》

はい、ありがとうございます。堀さん、お願いできますか

《堀氏》

最初のお話にちょっとあったんですけど、住み続けたいまちの中に
住民の主体性がキーになるというお話だったと思うんですけど
僕は何か浦和はやっぱりその恵まれてると思いますし
その中で知らなすぎる部分があるんじゃないかなと思っていて
やっぱりこの30年後とかに向けて、課題がいっぱい出てくると思うので
自分はその数字から見える化して、それをわかった上で主体性を持てる
そういう取り組みをちょっとしていきたいと思っていますので
よろしく願いします

《宮本氏》

はい、ありがとうございます。三ツ口さん、お願い致します

《三ツ口氏》

はい、そうですね
やはり世代間でうまく繋がってないとか、知らないとか
なかなか活動に参加する世代のところが少ないとかって
色々あると思うんですけど、やっぱり一番はとりあえず困ってないって
ところがあるのかなと思っていて
そのとりあえず困ってないって事自体に

問題が実は内包されていて
もう一つには、なぜじゃあ自分は関わられたけど
関われない人が多いのかなっていうと、やっぱり忙しいんですよ
とにかく皆さんめちゃくちゃ働いてる人がこの町に住んでると思うんですよ
だから20代30代40代めちゃめちゃ稼いで、めちゃめちゃ忙しい
その中で自分の時間をどこまで使えるかって言った時に
とりあえず困ってないしな。で、とりあえず活動してる人もいるしな
自分達はどこにどうやってアクセスすればいいかも分かんないしな
人口もめっちゃでかい
これが1万人の人口のまちで、めちゃめちゃ課題感が明確で
そしたら多分行けるんでしょうけど、その辺のところ
そこを突破するのは、僕はやっぱりデザインであったりとか
その力って大きいのかなと思っていて、伊勢丹の屋上で
うらわLoopをやった時は遊園地をやったんですけど
2日間で4000人の人が来たんですよ
それで伊勢丹の人はびっくりしたんですよ
普段は年齢的にやっぱ60代以上の方が多く中で
その時には20代30代の方がブワツときて、しかも4000人も来ちゃった
この時はさっき言ったエモーショナルなところっていうのは
昔、伊勢丹の屋上には屋上遊園地があった
あったから復活させましたってストーリーをちゃんと作って
それをデザインで示して、メリーゴーランド置いて、そうすると
おじいちゃんおばあちゃんが当時子供だったお父さんお母さんを連れて
お父さんお母さんは自分達の子供を連れてみたいいな
そういう風になってくる事によって
意味づけって言うんですかね、空間にちゃんと意味づけをしていく
そこへエモーショナルに意味づけをしていって
そういうデザインで見せてあげれば
ああ格好いい、面白いって言って
魅力に気づいてくるみたいなのも起きると思うので
私はなんかそういうのをどんどん可視化
いやいや、こういうふうにやったら意外と面白いところあるよっていうのを
やはりずっと続けていきたいなという風に思いますし
そう言う関わりしろは、とにかくまちの中に多くなるといいな
とこののを希望しますね

《宮本氏》

ありがとうございます
もう時間となりましたので、これで。すいません、本当だったら何か
会場の皆さんからも何か質問等たくさんあったのかもしれませんがけれども
時間の関係でちょっと質疑応答の時間は取れなかったんですけども
傍聴者へのアンケートとかも、この後お願いしますので
もし何かご意見、ご感想、ご質問等とあればですね
そちらの方にお書きいただければと思います
最後、締め挨拶という事で、私がやらなきゃいけないんですけども
本日は本当にお忙しい中ですね、3連休の最終日という中でもですね
ご参加いただいてありがとうございます
また、登壇者の皆さんも本当にありがとうございます
今日、何かこう結論が出るっていう話でもないんですけども
最後に池本さんから示唆いただいたですね
親がいかにまちを楽しむかみたいな視点って
実はすごく大事だなと私も思っています
さいたま市の子育て支援とかですね
子供世代への施策っていうのは
さいたま市に限らずたくさんいるんなとこでやられてると思うんですけども
もちろん、子供のためにとってはすごく大事で必要な事だと思いますし
それによって魅力を感じて住む人も増えていくみたいな事は
あると思うんですけども、一方であまりやられてないのが
親世代がどうまちに関わるかとか、まちを楽しむかっていう視点で
何かこう施策を打ってるまちって多分ほとんどないんですよ
やっぱりそういう事が結果的に
そのまちに住み続ける理由にもきつとなっていて
親がまちを楽しんでいる、親が幸せに暮らしてるっていうのは
結果的に子供の幸せにも繋がっていくっていう事だと思うので
何かそういう事が能動的に起きるまちになっていく
浦和であってほしいなと思いますし
それがちゃんとこうビジョンに描かれていくっていう事が
これからのビジョンづくりにこう期待したい事かなと
実は今日のお話の中でも言われてた事がですね

実はビジョンの中にもちょっと小難しい表現ではあるんですが
書かれてたりするんですね。で、何かこう困ってない
課題のない事が課題みたいなまち浦和みたいな中で
何か課題を見つけて、それを解決しようって
多分あまり響かないというか
そこで市民が主体的に課題解決しようって事に多分ならない
なりづらい場所だと思うんですけど
逆に、だからこそむしろこう楽しめるまちとして、浦和というまちが
もっともっと打ち出せれば逆にそれが結果的に課題解決に
つながっていく事になるのかなと思っていくと
実はビジョンの骨子案の中にですね
まちが役割を果たすための課題という中で2つ
実は今日と同じような事が書かれていて
まちの再構築という中でデザインが大事だっという事が書かれていたり
人と人との関係性を構築するという事で
コミュニティデザインが大事だみたいな事が書かれてるわけですね
なので、これが今後ビジョンづくりの中で、それが具体的にどう
そのビジョンの中で、あるいは未来の30年後の浦和がどうなったら
そういうまちになるのかみたいな事を、もう少し具体的に
ビジュアル的にこう描いていけると、もうちょっと市民の方々が
そこに参加してみたいとか、自分が何かをやってみたい事に
つながっていくのかなという風に思ったりもしました

それでは、本日も時間となりましたので
本日の浦和の活動家意見交換会はこれで終了とさせていただきます
ご参加いただいた皆さん、ほんとにありがとうございました
登壇者の皆さん、ありがとうございました